

むきぼんだ花だより 10月

2015. 10. 3



エゴノキ科エゴノキ属

果実は長さ2cmほどの楕円形で、大きい種子を1個含む。熟すと果皮は不規則に破れて種子が露出する。

「里山行く摘みし木の実に指染めて」もと

ウルシ科ウルシ属

秋に直径5-15mmほどの扁平な球形の果実が熟す。果実の表面は光沢があり無毛。未熟果実は緑色であり、熟すと淡褐色になる。



サルトリイバラ科シオデ属

果実は直径7mm程度の球形の液果で、秋に熟すと赤くなる。



マメ科ハギ属

高さ1~2m。小葉は長さ2~4cmの広楕円形または広卵形で、先は丸い。表面は中央部にだけわずかに毛があり、裏面には伏毛が生える。花序は基部につく葉より長い。花は紅紫色で長さ約1.5cm。花期は7~9月。

ガマズミ(莢蒾)



●スイカズラ科ガマズミ属
ガマズミ(莢蒾)のガマはこの種の中国名「莢蒾(キョウメイイ)」に由来し、キョウメイイ→カメ→カマ→ガマと転訛し、ズミは「酸実(酸っぱい実)」に由来するのではないかとする説や、植物学者の牧野富太郎博士は、語源は不明だが、ズミは染めの転訛で、古来、この類の、ことにミヤマガマズミ(深山莢蒾)の果実で衣類を摺り染めたことと関係があるとしている。また、「神の実(かみのみ)」とつながるのではないかとする説もある。

上の写真は洞ノ原入り口の新しく設置された拡声器の下あたりに生えているガマズミです。

写っている赤い実はすべてガマズミですが、上段と下段は別々の株に着いています。両者を良く見ると実の色や密度が違っていることが前から気になっていました。

鷲見先生に見ていただいたところ、下段は「ガマズミ」と「ミヤマガマズミ」との交配種ではないかと言うことです。

ミヤマガマズミは大山など標高が高いところに多く自生しており、実の着き方がもっと疎らだそうです。



左の写真は同じ場所の5月のガマズミの花です。開花の時には両者の違いに気が着きませんでしたが、来年はもっと綿密に観察してみようと思っています。

アケビ



秋になると、妻木晩田では「くり」とか「アケビ」などよく見られます。今回もほどよく色づいた「アケビ」が観察されました。この日、休会中の1さんより採りたてのアケビの差し入れがあり、また俳句も添えてありました。



- アケビ アケビ科アケビ属(つる性落葉低木、原産地:日本、中国) アケビの名前は「実が開く(あく)」というところからきているそうです
- 花言葉 才能・唯一の恋
- 誕生花 10月23日・11月1日・11月13日

あけびの話

東アジア原産で、日本でも全国の山間部などにミツバアケビ、アケビ、ゴヨウアケビの3種類が自生しています。果実は6~10cmほどの長い卵のような形をしています。厚い果皮と、中に種と共に白いゼリー状の果肉が入っていて、熟すと紫色になった果皮がぱっくりと割れて中の種が顔を出し、この時が食べごろとなります。古くから日本では食用にされいて、果皮も果肉もどちらも食べられます。春の新芽や未熟果も食べられ、東北の山菜として食卓に並んできました。

●休会中の1さんからの投句です。

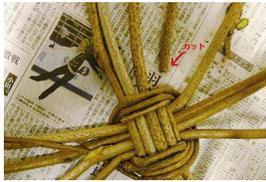
もとさんの元句 **たぐれども なお届かざる アケビかな**

40数年前 { **たぐれども なお届かざる 彼女かな**
たぐったら いども簡単 my wife

籠づくり 籠づくりに挑戦しました

何度も挑戦したけれど、最初の編みかたが一番神経つかいました。これさえできればどんな形にも発展できました。

籠指導(松本彰さん)



籠を作る時の基本形



アケビのつると他のつるを組み合わせました



アケビのつるで作った見本です



今年も各地で猛暑日が記録された暑い夏でしたが、残暑に苦しめられることは少なかったように感じます。むしろ台風の影響ごとに涼しくなり、まだ猛暑を覚えていた身体はびっくりしたくらいです。日頃の行いが良い人ばかりのこの日のあるく会も突き抜けるようなきれいな青空の下での観察会でした。



★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」